

実践例①：算数科(4年) 単元名：「角」 7月実施

**〈本時の課題〉 角の大きさをくらべる方法を考えよう。**

・全7時間予定の、2時間目。分度器を使った測定方法は学習していない段階。

**〈授業の視点〉**

自分の解決方法を筋道立てて説明させたことや、それぞれの解決方法により多くの児童がかかわることを意図しながら話し合わせたことは、本時の課題に対する考えを深めたり広げたりするために有効であったか。

**〈課題把握〉**

動物たちが口を開けています。

口を開けたときにできる角の大きさが1番大きい動物はどれでしょうか。

予想してみましょう。



**手だて①：解決への意欲をもたせるために、結果を予想させた。**



どんな方法で比べられそうでしょうか。

手だて②: 既習事項を活用すれば、本時の課題を解決できそうだという見通しをもたせた。



うすい紙に写し取れば、  
比べられそうです。

三角定規の角を使うと  
比べられそうです。



### <自力解決>

角の大きさをくらべる方法を考えましょう。

手立て③: 算数的活動を通して、児童1人1人に自分なりの解決方法を考えられるように、個の学習状況に応じた支援を行った。



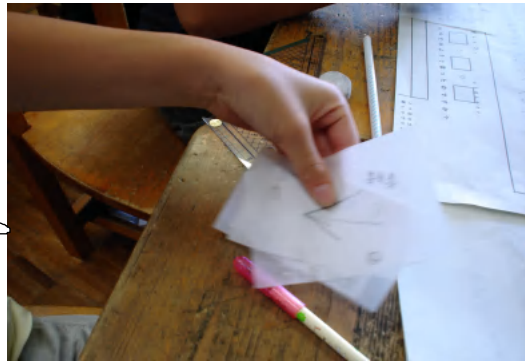
三角定規をあてて  
くらべてみます。  
三角定規がぴったり  
合わない角はどうしたら  
いいのかな？

児童の反応

三角定規を2枚使ってみたらどうか。

教師の支援、言葉かけ

うすい紙に写し取って重ねてくらべてみます。



角の大きさと辺の長さは、関係があるのかな・・・??

他の方法で調べても、同じ結果になるかどうか確かめてごらん。

☆角の大きさをくらべる方法を考えられない児童に対しては、以下のような支援を行った。



前回の授業で勉強したことを、いっしょに思い出してみよう。

重ねてくらべるときはどちらか1つの辺をきちんとそろえよう。

くらべるときは、裏返しにして重ねてもいいんだよ。

ワークシートに、自分が考えた方法を書きましょう。



手立て④：ワークシートに「分かりやすく」書くことを意識させた。具体的には、以下の2点について特に留意させた。

- ①解決方法を順序立てて書く。
- ②余分な言葉をけずり、すっきりまとめる。

解決方法が書けた児童に対しては、根拠を書くように言葉かけをした。

## 〈練り合い〉

それぞれの考えを発表し、角の大きさをくらべる方法をみんなで考えましょう。

手立て⑤：それぞれの考え方により多くの児童がかかわっていくことができるように、以下のような言葉かけをした。

### ○発表する児童に対して

順序立てて説明してみよう。

区切りながら話すと、  
分かりやすく説明できるよ。

余分なことばをけずって、すっきり説明してみよう。

### ○発表を聞く児童に対して

・説明の内容を正確に把握させる。

〇〇くんが説明したことを、  
もう1度言ってみよう。

・話の展開を予想させる。

〇〇さんの、  
説明の続きを予想してみよう。

・根拠を考えさせる。

〇〇くんはどうして、……と言ったのか考えてみよう。

### 児童の発表の様子



紙に写し取ってくらべました。前の時間に勉強した方法で、くらべやすかったからです。

三角定規の角をあてて  
くらべました。

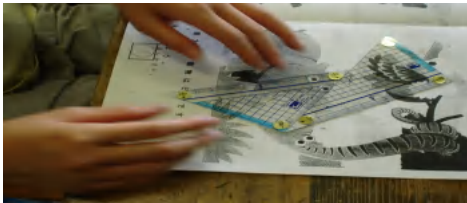


〇〇さんは、  
どうして、三角定規を使って  
くらべたと思いますか？

動物の口の形が三角定規の  
角に似ているからです。

くらべた結果がパッと  
すぐに分かるからです。

へびの口とぴったり合う  
三角定規の角は、あるのかな？



三角定規の角を2つ組み  
合わせたら、ぴったり重な  
りました。

辺の長さを測って、角の大きさを  
くらべる方法について、どう思  
いますか？

他の方法と結果が違います。

カバの口は大きいけれど、  
へびの方がいっぱい口を  
開けています。

辺の長さでは、  
角の大きさをくらべられ  
ないと思います。

## 〈まとめる〉

今日の学習で分かったことをまとめましょう。

手立て⑥：角の大きさをくらべる方法について、分かったことを各自で記述させた。  
そして、それを発表させ、本時の学習をまとめた。



## 授業を終えて

### 《成果》

○ ねらいを吟味すると本時の授業が見えてくる。

本時のねらいを十分に吟味することから、授業構想をスタートさせた。吟味の視点は以下の2点である。

- ①学習指導要領の目標や内容と照らし合わせて妥当であるか。
- ②本時で、児童が何をどのようにできるようにすればよいのか。

上記の2点を吟味することで教材研究が深まっていった。また、各学習過程でどんな活動をさせれば本時のねらいの達成につながるか、そのための支援はどうあるべきかを明確にしながら授業構想を練ることができた。

○ 骨子のしっかりとした問題解決的な学習過程で、ぶれなく授業を進め、本時のねらいを達成。

課題把握→既習事項をもとにし、「結果」と「方法」について、見通しをもたせることができた。

自力解決→事前に児童の姿をよく予想したことが個に応じた支援につながった。

練り合い→それぞれの解決方法を子供たちに返したことにより、子供たちが互いの考えにかかわり合いながら話し合いを深めていくことができた。

### 《課題》

- 課題解決への原動力がさらに強化するような課題提示の方法や課題把握のさせ方。
- 児童の思考を活性化するために有効な教具。
- 「まとめる」過程で、本時のねらいと児童が記述する内容の整合性をもたせるための発問。